



導入直後ですでに都教組の懸念が現実化

教育や仕事にマイナスの影響の声



発行所 東京都千代田区二番町12-1 エデュカス東京(全国教育文化会館) 東京都教職員組合 電話(3230)3891 編集発行人 山崎 忠彦 1部15円(郵送料別) 組合員の購読料は組合費に含む

ホームページ http://www.tokyousou.jp/ E-mail:tokyoso@zenkyo.org

職場討議 資料

職場の分断を許さず、協力と共同の学校を

「こどもと教育を守る」ために 制度の反対・廃止の声を広げよう

都教組が10月に実施した「主任教諭アンケート」に全都から約3400の回答が寄せられました。20代から60代まですべての年代から回答をいただき、主任教諭・主幹教諭の方からも多くの回答を寄せいただきました(回答数約35%)。

「弱まった」が13.3%も

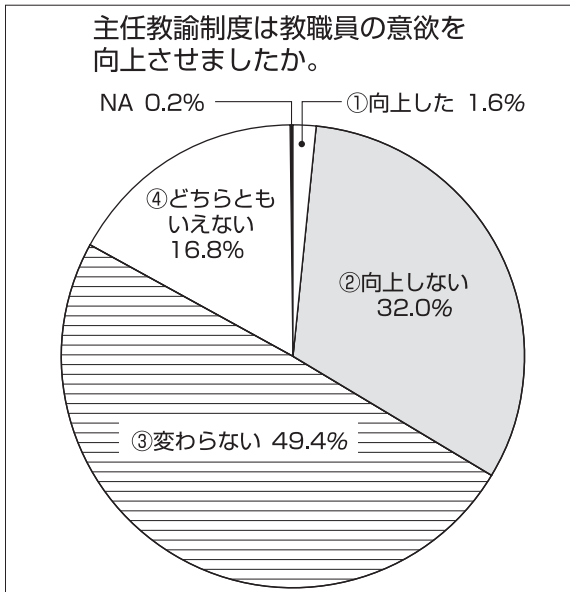
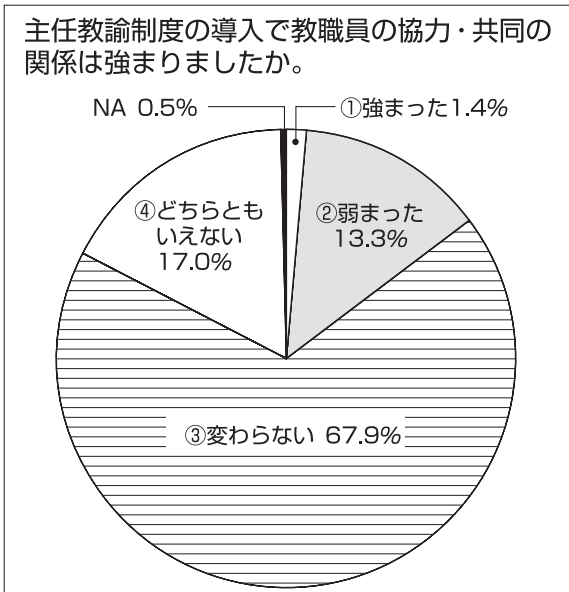
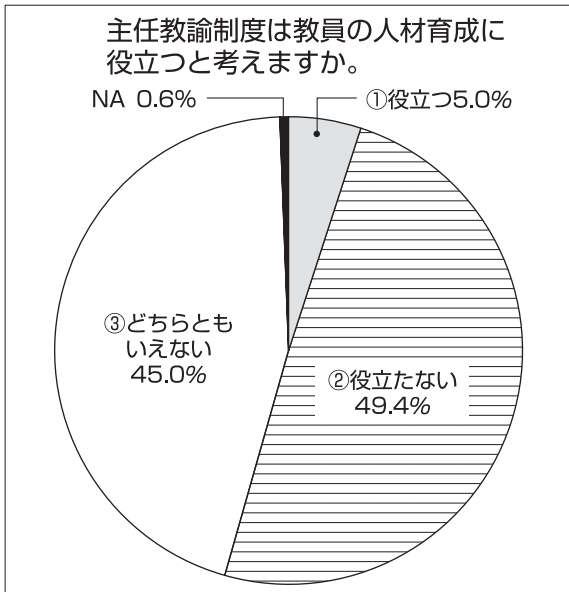
「主任教諭制度は教職員の意欲を向上させましたか」という問いに「向上した」はわずか1.6%しかなく、「向上しない」が32%も占めています。また「主任教諭制度が教員の人材育成に役立ちますか」という問いに「役立つ」という回答は5%しかなく、「役立つたない」は49.4%と半数近くになっています。主任教諭の回答を取り出してみると「人材育成に役立つ」はわずか2.7%しかありません。都教委がかける「教員

一人一人の意欲を引き出し、資質能力の向上を図る」という制度の目的とはまったくかけ離れた結果があらわれています。

数よせられています。

「協力・共同の関係がこれまでと「変わらない」が67.9%あり、これが、子どもと教育を守るために多くの教職員が「職場の輪を保とう」と努力をしている証です。しかし、今後「教育活動や人間関係にひびが入る可能性が増えてくる」と危惧する声も多々あります。

私たちは「子どもの前では同じ先生であり、指導の『責任』は変わりがない」として「教諭」と「主任教諭」の違いは校務分掌に関わる職務の違いに過ぎないものであることを一貫して主張してきました。主任教諭は職務上の上司ではないことも確認してきました。しかし実際には上意下達の体制が強まっています。アンケート結果はこの間の都教組の主張の正しさを裏付けています。職場の分断を許さず、反対・廃止の世論を広げましょう。



【主任教諭の声】

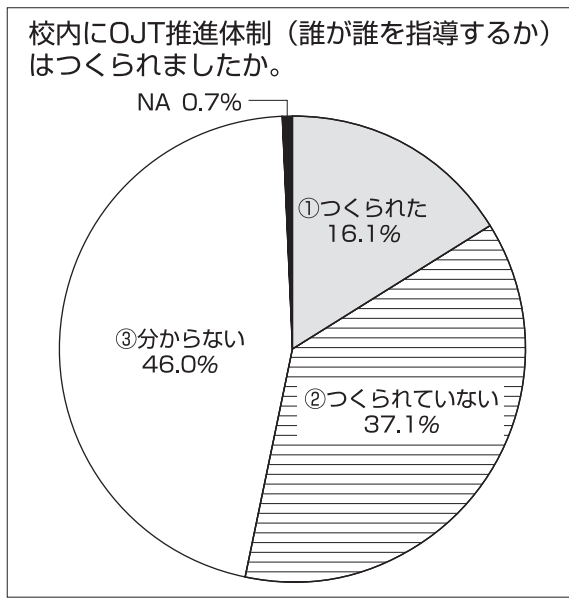
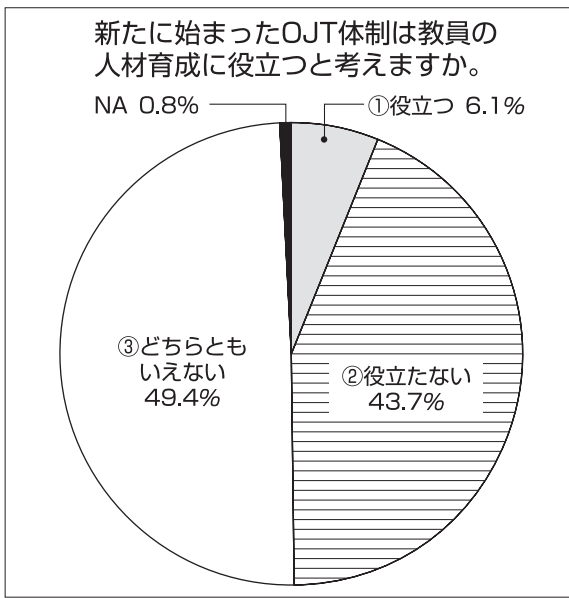
- OJTは現場でしっかり行われており、後輩の育成にあたっては、おしきせの新任研修が強化され、とてもやりやすくなっている。主幹に続いて主任教諭制度を入れ、教育現場の分断化が進んでしまっている。
- とても気を遣うようになった。それがとても自分自身不自然だと感じてやりやすくなる場面が多々ある。
- 主任教諭のみを集めた研修が校内で行われた時、職員室内にお互い遠慮するような空気が流れた。学校現場は、自発的なお互いの助け合い、学びあいで力を付けていくものと考え、経験者が未経験の人に教えるのは当然の人間の行為で、役職を決めてやるものではないと考える。
- 受ける前の話では「年数が経った人はこれからみんな主任教諭になる。なったからと言って今までと何も変化はない」とのことだったので、なってみたら研修があって、若手の指導をしてなどと、主任教諭であることが強調され、自分からなつたことが恥ずかしく、プレッシャーに感じたりしています。主任教諭でない方から自分が指導していただいているのに思っています。
- ある程度の年齢がいけばやらなければならないとは思いますが、家庭事情、その他を何も考えず管理職に「主任なんだからやっただけ前」と強引に仕事をやらされる口実をつくらただけだと思つた。

【40代以上の教諭の声】

- 教職員が協力して、子ども達を育てていくのが教育だと思います。主任教諭制度は子どもをどのように育てるのか等の共通認識がないように思います。
- 教員の人材育成ならば、子どもと向き合う時間や教材研究をする時間を大切に、経験をつむこと。そして仲間と研修して納得し意欲がもてるのが大切だと思う。
- 主任教諭選考に不合格になったが、今年度から学年主任をやっている。OJTはやりたくないが、初担任の先生がいるので、校長からOJTを意識させられている。「主任教諭でもないのに、なぜ自分が?」と思ってしまう。
- 教育の根幹にかかわる部分は、今までも経験を積んだ方がアドバイスしていました。何より顔を合わせての指導だけでなく、背中を見て影響を受ける部分が大切だと思います。主任教諭制度になって、口だけの部分が成果として認められるのは困ります。
- 学校という所は、それぞれの持ち場で、それぞれの特性や技能を出し合って、教育という仕事をしているのであって、給与などでの動機付けは、効力を発揮しない。教育行政の仕事は、教員が希望を持って仕事ができるようにすることだ。
- 主任教諭も教諭も子どもと向き合う点では同じであるが、校務分掌をめぐって、職員の不協和音がでた。学校の教育はよくなるどころか、職員の協力体制を破壊するものでしかない。

【20代・30代の教諭の声】

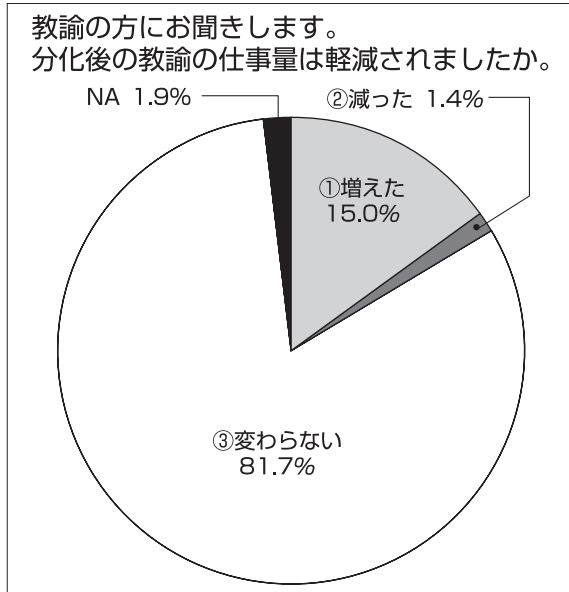
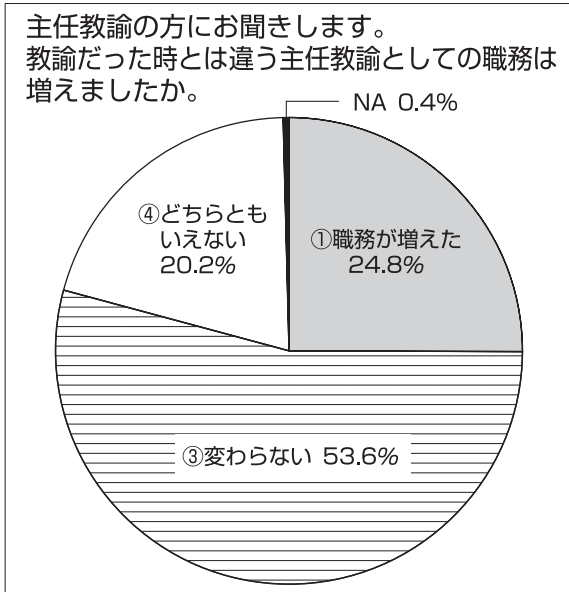
- 主任教諭のOJT推進研修に自身の案件が取り上げられることが不安で、気軽に主任教諭に相談できなくなった。
- 転任1年目でも学年主任をする先生がいて、そうすると、その学年をもっと知っている先生が力を発揮しにくいようでした。立場の違いによって、適材適所でない部分が出て、お互いにギクシャクすると困ると思います。
- トップダウンの中継地点が増え、書類も時間も倍々に増えていく。あきらかに効率も悪い仕組みです。民間企業でも、今更こんな効果の上がらない方式は採用されません。OJTについても、教員同士の学び合いは若い人(経験の少ない)も増え、必要を感じますが、都のやろうとしているのは方向違いに思います。自分の時間を削って勉強会をしている人にとっては本当にばからしいことだと思います。時間も労力もムダに吸い取られます。免許更新制も冷静に考えれば変だとわかりますし、主任制度もアピールしてなんとかならないのでしょうか。
- 主任教諭の先生方ばかりに仕事がいき、気の毒に思うくらい頑張っているのに、なんだか心苦しい。
- トップダウンですべて動いてしまう。現状に即して動けず、主任の先生方もがんばっておられますが、管理職の先生方との板挟みになっているように思います。



新学習指導要領への移行に
よって、授業時数が増える一
方で空き時間がなくなり、長
時間過密労働が広がっていま
す。そのような状況で、主任
教諭制度がこれまで以上に教
職員を多忙にさせる制度であ
ることが浮かび上がってきた
した。

分化後の教諭の仕事量が
「減った」はわずかに1・4
%です。仕事量は「変わらな
い」が24・8%もあ
ります。分化前の教諭に比べ

主任教諭制度は 学校をさらに多忙にする

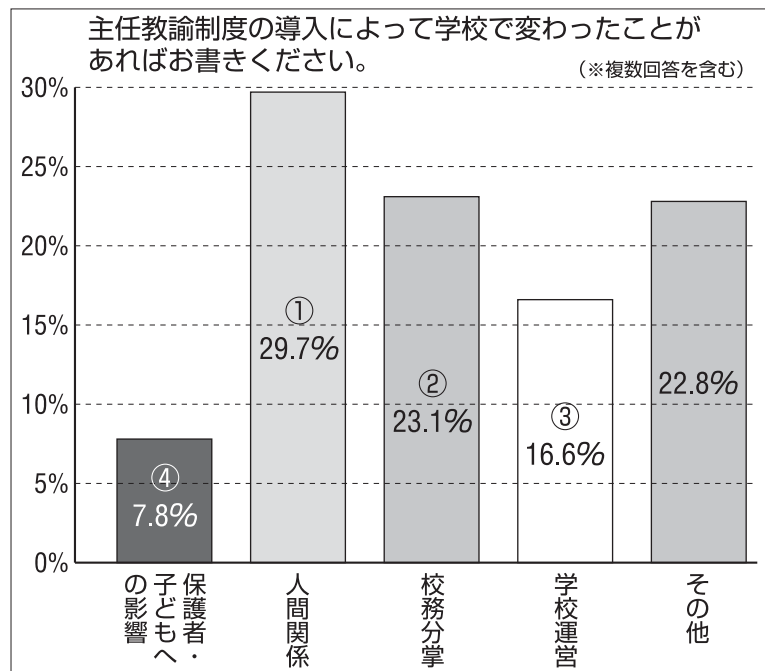


実施半年ということもあり、
これまでと変わらない職
場も多くあります。しかし、
「学校が変わったこと」の記述
はどれもマイナスの変化ばかり
です。制度を徹底させよう
とすればするほど矛盾が広が
り、これは間違いありません。
どう取り繕っても制度の不信
感を消すことはできません。

て賃金は増えていないが仕事
量が増えていることになりま
す。

さらに「主任教諭の出張が
増えたために、授業の補教が
大変になった」という教諭の
声がある一方で、「主任教諭
だからというだけで仕事を引
き受けるをえない」と教職
員がばらばらにされ、仕事を
抱えてまわっている実態もあ
ります。「子どもと関わる時
間が減った」という指摘があ
ることは重大です。

人間関係・校務分掌・学校運営 どれもマイナスの変化が



【人間関係】

- 主任教諭以上に仕事をしているのに身分上の上下がある。気にしないとはいえず多少穏やかならぬ心情がある。決して教育現場にあってはならないもの！
- 表だった変化はみえてこないが、よしがんばろう！（主任教諭へむけて）とはりきる人がみられたり、面倒なことは主任教諭なんだからやってよ！と思う人などが感じられる。これは人間関係を壊すものになっていると思う。信頼関係が今後くずれていくと思う。
- 自分が受けるときに言われていたこととは異なる。教員を分断するようで嫌な気がする。教員は、差別・区別なく、役職関係なく、皆で協力して子どものために向かうことに良さがあると思います。
- 主任教諭になった人も、今までの主任以外のOJTの責任者となり、困惑しているし、平は平で「だって平だし」という気になり、少しずつミゾができていくように感じる。
- 以前に比べて、主任教諭の方に本音を少しだけ言えなくなりました。

【校務分掌】

- 制度がなければ当たり前に行っていたことなのに、主任教諭になっていないのにやるのは損だな、という思いが出てくる。「主任教諭にやってもらってよね！」と思う自分が悲しい。そんなひどい制度です。
- 管理職から任せられた仕事（主任の教諭）が忙しく、その他の仕事を頼みにくいので、結局主任教諭以外の人が細々とした仕事を引き受けるようになる。忙しさが何倍にもなっているように思う。
- 主任教諭であるかどうか先に立ち、それを中心にグループをつくることになるので、学年会や低中高ブロック等のチームで仕事がしにくくなる。
- 主任教諭を「主任」にあてるため、学年によって人事に偏りがある。若手とベテランの偏りが激しい。
- 主任教諭の数に合わせて、今まで無かった〇〇主任を作り任命している。無意味である。

【学校運営】

- 慣れない分野で主任になっているため、昨年度より機能していない。昨年度までの経験者や勝手の分かっている職員に負担がかかっている。
- 3主任のうちの誰かが不在、出張の日に職員会議が設定されているなど不合理なことが多い。これでは議題に対する周知徹底や共通理解ははかれない。
- 「主任教諭だから」「主任教諭として」と管理職に言われたり、仕事が回ってくるが増えました。たしかに主任教諭なんです。いきなりはできない。これから研修して成長していきたいと思っているんですが、ちょっとプレッシャーです。受けなきゃよかったかな。
- 1、2年目の人を対象に全教員が順番に20分ずつ指導する時間ができた。管理職も他の教員にも知らせて見にくるので少し緊張します。
- わざわざ書面であらわさなくても新採用の指導等は、場面場面で気づいた時に先輩の教員がその都度、声をかけてやっているのに「主任教諭だから」とその事を自己申告書に書くよう、管理職から言われた。
- 管理職と主幹教諭・主任教諭のみの会議が増えた。その職の人にとっても負担と思うが、こそこそ決めていこうという感じがしない。

【保護者・子どもへの影響】

- 年度当初の教職員を紹介する際、保護者にむけ主任教諭の〇〇先生と紹介したことは保護者に対して差別感をあおっていたと感じる。
- 名札にある「主幹」「主任」の記入を見て質問する子が増えた。児童が「〇〇先生は学校で3番目に偉いんだよ」と言っている。誰が教えたか知らないが、教育上好ましいことではない。
- 研修などが多くなり、生徒と関わる時間が少ない。

今後のとりくみ

- ① 討議資料をもとに職場で問題点を話し合い、全教職員の協力・共同を守る合意を広げましょう。
- ② 討議資料をわたして校長への申し入れをすすめてみましょう。地教委との懇談を申し入れましょう
- ③ 都教組は教職員賃金改善と制度導入後の実態にもとづく協議の場を都に要求していきます。
- ④ 子ども・教育の問題として訴え、父母・都民・労組・民主団体との連帯・共同の力で反対・廃止の世論を広げましょう。